

あらゆるブルジョア改良主義的潮流のなかには二つの流れがある。

アメリカにおける選挙のその後

われわれはすでに『プラウダ』紙上で、アメリカ共和党の分裂とルーズヴェルト*の「進歩」党の結成とがどのように大きな意義をもっているかを指摘した〔本全集、第 18 巻、433~435 ページ〕。

いま選挙はおわった。「民主党」が勝利した。そして社会主義者の予想していた結果がすぐさま現れはじめている。450 万票を獲得したルーズヴェルトの進歩党は、広範な、アメリカ的な規模で舞台に登場したブルジョア改良主義的潮流のひな型である。

この潮流は形こそちがえ**あらゆる**資本主義国にある。それだからこそ、この潮流の運命は一般の興味をひくのである。

あらゆるブルジョア改良主義的潮流のなかには二つの流れがある。それは、改革の約束で大衆をだますブルジョアのボスどもや政治屋たちと、古いやり方では生活していけないと感じて、だれより多くのもを約束する山師たちにつき従う、だまされた大衆とである。そしてアメリカでは、出来たてのほやほやの進歩党が、選挙の翌日からもう支離滅裂になっている。

ルーズヴェルトの山師ぶりで大衆をだましたブルジョア政治屋どもは、いまではもう共和党との**合同**をさげんでいる。どうしたことだろう？ きわめて簡単である。勝利した党がアメリカではとくに厚かましく自分たちの支持者のあいだに分配する、収入のある地位が政治屋には必要なのである。共和党の分裂は「民主党」に勝利をもたらした。民主党はいま有頂天になって、公共の財物というピロークのあぶらっこい切れはしを分けあっている。彼らの競争者が「進歩」党を見すてて、民主党に打ちかつあらゆる見込みのある単一の共和党に立ちかえろうとしていることは明らかである。

なんという無作法で恥知らずな「党派性」取引ではないか！ しかし、われわれは、これとまったく同じことを**あらゆる**資本主義国で見ているのだ。そしてその国の自由が**すくなければすくない**ほど、このブルジョア的敏腕家の党派性取引はますます醜悪に、ますます下劣になり、利権、補助金、収入の多い（弁護士諸君によって）事件等等をあさるうえで、舞台裏の陰謀や個人的な「つながり」はますます大きな意義をもつようになるのである。

あらゆるブルジョア改良主義的潮流の他の一翼——だまされた大衆——は、これまたアメリカ式に独特なやり方で、自由に、はっきりと自分の正体をあらわした。ニューヨークの労働者の新聞『呼びかけ』**はこう書いている、「進歩党に投票した数十人の人々は、いま社会党系の編集局やビューローにやってきて、あらゆる種類の情報や報道をもとめている。これらの人は大部分、若い、人を信じやすい、経験のない人々である。これは、政治や経済学の知識をすこしももたないで、ルーズヴェルトに毛を刈りとられた小羊たちである。彼らは、ルーズヴェルトに投じられた 450 万票よりも、社会党に投じられた 100 万票のほうが重大だということを本能的に感じている。そして、なによりも、ルーズヴェルトの約束した最小限の改革が実現できるかどうかという問題に興味をもっている」と。

「われわれがこれらすべての『進歩黨員』に、社会主義文献をわたさずにはひとりもか

えさず、あらゆる情報と報道を喜んであたえることは、いうまでもない」と『呼びかけ』は付けくわえている。

もっとも手に負えない古狐と敏腕家が……社会主義のために「働いている」というのが、資本主義の運命なのだ。注)……は本文中の略

* セオダー・ルーズヴェルト—1901年から1909年までのアメリカ合衆国大統領

**『理性への呼びかけ』(“Appeal to Reason”)—アメリカ社会主義者の新聞で、1895年に創刊された。

第36巻『アメリカにおける選挙のその後』P222～223

1912年11月26日(12月9日)以前に執筆

ポイント

あらゆるブルジョア改良主義的潮流のなかには二つの流れがある。それは、改革の約束で大衆をだますブルジョアのボスどもや政治屋たちと、古いやり方では生活していけないと感じて、だれより多くのものを約束する山師たちにつき従う、だまされた大衆とである。

そしてアメリカでは、出来たてのほやほやの進歩党が、選挙の翌日からもう支離滅裂になっている。だから、われわれは、これらすべてのだまされた『進歩黨員』に、社会主義文献をわたさずにはひとりもかえさず、あらゆる情報と報道をあたえるために力を尽くさなければならない。